

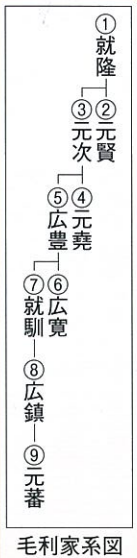
徳山の歴史探訪MAP 見玉源太郎 & 徳山藩 GUIDE



徳山藩は、元和三年（1617年）に毛利輝元の次男就隆が都濃熊毛郡内の三万石余りを分知され、はじまりました。就隆は初め下松に居を構えましたが、慶安三年（1650年）に居館を野上に移し、野上を徳山と改称しました。

第三代藩主・元次の代に、松の伐採をめぐって宗家と対立し、享保元年（1716年）幕府より本藩への非礼として改易されました（万役山事件）が、その後、奈古屋里人らの奔走で、享保四年（1719年）に元次の子・元堯が三万石で再興しました。

歴代藩主の墓は現在、大成寺のそばにあります。



見玉源太郎生誕の地

見玉家屋敷（後に見玉文庫）跡であり、源太郎誕生の際、使われた井戸が今も残っています。現在は生誕の地として整備されています。

徳山藩館邸跡



文化8年（1811年）に徳山藩初代藩主・毛利就隆を祭神として建立されました。

見玉神社



陸軍大将・見玉源太郎を祭神とし、大正12年（1923年）に旧邸跡に建立されたものです。

見玉源太郎像



台湾総督として台湾の近代化に尽力した源太郎。台湾の人々は彼の人格を尊び、銅像を製作しました（台湾国立博物館所蔵）。彼の功績と遺徳を後世に永久く伝えていくため、その銅像の複製を設置しています。

藩校「興讓館」跡



7代藩主就馴（なりよし）の時代に創設された藩校「鳴鳳館」は、現在地に移転後「興讓館」と改められました。

大成寺



毛利家墓所
初代徳山藩主毛利就隆と歴代の藩主及びその妻子の墓所です。



タイワンゴヨウ

見玉神社創建時に台湾から贈られた珍しいマツの木。源太郎を末永く称えるようにそびえています。



見玉神社に隣接する公園。市街地の中の公園で遊具も整備されています。

見玉公園

徳山七士碑



JR山陽本線
JR山陽新幹線
スオーナダフェリー乗り場
大津島巡航乗り場
アイコンの説明 H...ホテル

徳山藩の立藩から改易、そして再興へ「万役山事件」

万役山事件は、正徳5年（1715年）、周防国の久米村万役山の松の木一本を巡る争いから領界の争論を生じ、徳山藩改易にまで発展した事件です。万役山は現在の周南市にある山で宗家の萩藩領の西久米村と徳山藩との境界に位置しています。正徳5年（1715年）6月6日、西久米村の農民・喜兵衛とその息子らが田の草をとっての帰りがけに、かつて植えておいた小松1本を切り取り、田の畦修理のため持ち帰ろうとしたのを、徳山藩の山回り足軽である伊沢里右衛門と久助が見つけたことがきっかけで争いとなり、里右衛門は喜兵衛の首をはねてしまいました。この事件について萩藩、徳山藩双方の言い分が異なり、幕府の裁定を求める事態となったのです。その結果、徳山藩の改易、藩主毛利元次の新庄藩お預け、嫡子・百次郎、次男・三次郎（後の毛利広豊）らは萩藩にお預けと決定しました。

徳山の家中ではこの事態に驚き、藩の再興を目指すこととなりました。藩主元次から追放されていた奈古屋里人を中心として活動し、享保4年（1719年）1月、里人は「周防徳山領百姓中」と署名した嘆願書を老中らへ宛てて届け出ました。萩藩主・毛利吉元から内願した形式を取り、5月28日に元次のお預けを免じ、元次の隠退と嫡子百次郎の家督相続が許可されました。ここに徳山藩は再興されたのでした。